

受験番号	
------	--

日本赤十字東北看護大学
看護学部看護学科

令和8年度
自己推薦選抜（総合型選抜）

試験問題

[小論文]

【注意事項】

1. 小論文の時間は60分です。
2. 解答開始の指示があるまで、試験問題の表紙を開いてはいけません。
3. 試験問題の表紙・解答用紙に受験番号を書いてください。
4. 試験問題および解答用紙は切り離してはいけません。
切り離した解答用紙は無効です。
5. 空白の部分は、メモに使用しても構いません。
6. 質問があるときは、手をあげて試験監督者に知らせてください。

次の文章を読み、「現代の子ども」をめぐる状況を踏まえ、子どもたちを持続可能な未来社会の「創り手」に育むために重要な内容を検討し、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

近年、日本人の家族のあり方が大きく変化してきた。それはここ秋田でも同様である。かつては、何世代もの世帯が同居する大家族が主流だった。

一昔前は、家族とのつながり以外にも親戚や近所付き合いが盛んで、ある意味では町全体が大きな家族だったと言えるかもしれない。子どもたちは、このコミュニティーの中で、多様な世代の老若男女と日常的に触れ合い、家族以外の人々からも沢山のことを学んできた。ときには、近所の大人に叱られながら育ってきたのである。かりに、家庭内で困りごとが生じて、家から飛び出し空き地に向かえば、いわゆるガキ大将が、子どもたちを丸抱えし、よく面倒見てくれていたのである。

ところが、社会構造の変化に伴い、瞬く間に核家族が急増してきた。さらに、晩婚化や非婚化が進み、夫婦のみの世帯、一人世帯の割合も急増している。もはや「サザエさん」や「ちびまる子ちゃん」のような典型的な家族像は共有しにくくなっている。

家庭生活においても、それぞれが自分だけの空間に身を置くことが常となり、生活の時間帯もバラバラである。そればかりか、一見すると同じ空間・時間を共有しているように映っても、実は各自の手の中にあるデバイスとのみ向き合っている状況が日常茶飯事となっている。

つまり、現代の子どもたちは、学校での暮らしを除けば、親以外の他者とはほとんど接する機会がないばかりか、家庭内のコミュニケーションさえままならないのである。

忙しい親は、心が通う直接体験の機会を十分に保障できず、家庭内にあっても子どもを孤立させてしまっている。いたしかたなくメディアに頼ることで、メディアに溺れる子を育ててしまっていることに気付くことさえないと言える。

結果として、家庭を基盤として育むべき、人間関係を築く力や他者に対する想像力が十分に形成できないまま思春期を迎える状況になりかねない。

一方で、児童虐待やヤングケアラーなど、子どもを取り巻く深刻な課題は、現代の偏った親子関係、家庭環境がもたらす得意な現象だという見方さえある。

持続可能な未来社会の構築は、近未来を生き抜く、目の前の子どもたちに託すしかないことは、もはや周知の事実である。

子どもにとって最大の環境は、現代を生き抜く私たち「人間」であることを自覚し、社会総ぐるみで、かけがえのない未来社会の「創り手」を守り・育む必要があるだろう。